

小松 昇平 (2002 年卒)

留学施設 Hopital Saint Antoine, Paris、Hopital Pitie, Paris

留学期間 2013 年 10 月～2015 年 3 月

外科医にとって留学は必須ですか？ という質問をよく受けます。私は、「必ずしも必要ではないかもしれない、でも海外での生活や勉強に少しでも興味があるのであれば、絶対に行くべきだと思う。」と答えます。

海外での生活は多大な困難や不便が伴いますが、それを上回る客観的な視点・価値観を得ることが出来ます。私は 2013 年 10 月から 1 年半、フランス・パリに腹腔鏡下肝切除と脳死肝移植の勉強に行きました。多くの臨床的症例の経験もさることながら、世界各国の外科医や日本から留学していた志高い肝臓外科医の同士と出会えた事は何よりの財産となりました。

基礎系と異なり、臨床系での留学を検討する場合、テーマの選択と環境が非常に重要になります。当科では多くの臨床・基礎留学先を揃えています。気軽に相談して下さい。



Prof. Soubrane と Prof. Scatton との記念写真



医局での集合写真。ヨーロッパ各国からなる多国籍な team です。



腹腔鏡肝切除の手術風景



エッフェル塔にて